

コミュニティ主体の好事例紹介



マサイティ郡ムタバ地区におけるヤギ飼育や野菜栽培による収入創出活動。マタニティハウスの運営管理費に活用します。



マサイティ郡カンボワ地区における住民主体によるマタニティハウスづくり。コミュニティが主体となって、活用可能なリソースを用い、保健センター近辺の既存の古い施設をマタニティハウスとしてリフォームしました。

企業・団体による協力



ワンストップサービスサイトに水タンクを設置
(by 国際ソロプチミスト東京・銀座)

カルウェオ地区のワンストップサービスサイトに設置した水タンクは、国際ソロプチミスト東京・銀座の支援によって設置されたものです。水タンクの設置により、マタニティハウスや母子保健棟での出産分娩もより衛生的に行われるようになりました。



人力発電自転車を施設での安全な出産に活用 (by JKA補助事業)

SMAGジョセフィンさん「人力発電自転車は、ムタバ地区のマタニティハウスと母子保健棟に1台ずつ置かせてもらっています。主に携帯の充電や停電時に活用しています。この自転車でマタニティハウスに宿泊する妊婦さんを連れてきたり、妊婦さんのエクササイズに使ったり、停電時の夜間の出産の灯りに役立っています。

成果 OUTCOME

☞ プロジェクト対象10地区の保健施設で出産する妊婦の割合は、2013年に平均30.5%、2014年は37.4%、2015年は35%でしたが、プロジェクト開始から2年後の2016年は44.3%と増加を示しました。

☞ 第1年次ワンストップサイトであるムタバ地区保健センターに、州保健局から緊急搬送のための救急車の供与と専属の運転手が配置されました。また、ワンストップサイト設立以来、看護学校の研修として毎月10名の看護学生が3週間ほど滞在し、看護学生の実地研修の拠点として活用されています。

☞ 第2年次ワンストップサービスサイトであるカルウェオ地区保健センターは、保健医療従事者が4名から10名に増員され、包括的なサービスを提供する環境が整い、ムボングウェ郡東部の拠点センターとしてアクセスを向上させました。

インタビュー INTERVIEW



ムタレ モリサワ マサイティ郡ムタバ保健センター、看護師

私がムタバ保健センターにきてから2年が経ち、多くの変化がありました。来たときは出産スペースがとても狭くプライバシーがなく、ユースは、保健センターに恥ずかしくて来られなく、必要な情報や避妊具を受けることもできなかったのです。母子保健棟ができたことにより、出産スペースのプライバシーが保たれ、産前産後に十分休むスペースも整備されました。また、ユースセンターが出来、若者ピアエドゥケーターが育成されたことにより、保健センターに避妊具を受け取りにくる若者が徐々に増えてきました。村の自宅ですべて7人の子どもを出産していた女性は、自分の村の母子保健推進員(SMAG)の呼びかけにより、8人目の出産は、保健センターで出産しました。このような変化は、地域の母子保健推進員(SMAG)や若者ピアエドゥケーター、そして地区プロジェクト運営委員会のコミュニティへの熱心な働きかけや啓発教育活動によるものです。妊娠や出産でお母さんや赤ちゃんがなくなることがないよう、チームで一丸となって推進していきたいです。



Planned Parenthood Association of Zambia
House No.8, Boundary Road, Northrise,
P.O. Box 72442, Ndola, Zambia
TEL +260-212-2640996
<http://www.ppoz.org.zm/>



ジョイセフ
JOICFP

途上国の妊産婦と女性を守る

Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning (JOICFP)
Hoken Kaikan Shinkan, 1-10 Ichigaya Tamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0843 Japan
TEL +81-3-3268-5877 FAX +81-3-3235-9774
<http://www.joicfp.or.jp>



JOICFP Partnership Program (JPP)
Maternal, Newborn and Child Health One Stop Service Project in Zambia 2016

「妊産婦・新生児保健ワンストップサービスプロジェクト」2015 - 2017
継続ケアを含めた包括的な妊産婦ケア活動と若者への啓発教育活動を拡大

ジョイセフは、長年の妊産婦支援の経験をもとに、2014年12月から3カ年の「妊産婦・新生児保健ワンストップサービスプロジェクト」を、外務省の「日本NGO連携無償資金協力」を得て実施しています。2016年は、10月にコッパーベルト州ムボングウェ郡カルウェオ地区に母子保健棟、マタニティハウス、ユースセンター、助産師住居を建設し、同郡2つ目のワンストップサービスサイトを開設しました。また、母子保健推進員(SMAG: Safe Motherhood Action Group)、若者ピア・エドゥケーター(PE: Peer Educators)の育成研修を拡充し、若者への思春期保健に関する啓発活動強化、コミュニティへの啓発活動強化を図り、質のよい保健サービスの向上と妊産婦や女性の保健サービスへのアクセスの改善活動を実施しました。



目的
ザンビア農村部にあるプロジェクト地区において、妊産婦・女性による質のよい保健サービス利用が増加する。

現地協力団体
IPPFザンビア(ザンビア家族計画協会: PPAZ)
コッパーベルト州マサイティ郡保健局
ムボングウェ郡保健局

対象地域および人口
コッパーベルト州
マサイティ郡5地区(ムタバ、カンボワ、ミシキシ、チレセ、カフラフタ)
ムボングウェ郡5地区(カルウェオ、ミカタ、カンエンダ、セントアントニー、イブンブ)
マサイティ郡人口: 140,452人
ムボングウェ郡人口: 110,744人

支援協力
外務省、JKA、企業・団体・個人からの寄附ならびに国際家族計画連盟(IPPF)



ジョイセフ
JOICFP
Reproductive health for today and the future



2016年の活動 Activities

1. コミュニティの人材育成

母子保健推進員 (SMAG) の再研修



母子栄養 (JKA補助事業)

SMAG 108名を対象に、マサイティ郡保健局の栄養士が講師となり、妊娠中と産後の栄養を含め母子の健康を左右する1000日間(妊娠中270日、生後2年の730日)の栄養の重要性を学び、理解を深めることができました。また、現地のマーケットで入手可能な地産の食材を組み合わせ、グループに分かれて、妊産婦の食事や離乳食のレシピを数種類実際に作ってみることで、栄養バランスと食材の組み合わせの工夫について学びました。



家族計画 (JKA補助事業)

SMAG 66名を対象に、避妊方法の種類(コンドーム、ピル、注射法、子宮内避妊具など)や使い方の副作用を中心に、性感染症やHIVエイズ、コミュニティにおける啓発教育活動とマッピング、若者に向けた啓発活動とサービス提供、地域のサポート体制、活動記録などをテーマに研修を実施しました。地域では、SMAGが避妊について正しい情報提供やサービスを行えるように家族計画の普及を強化しました。



行動変容に向けたコミュニケーション強化と思春期保健

2015年に実施した行動変容のためのコミュニケーション技能強化研修のフォローアップ研修として、SMAG総勢300名がリプロダクティブヘルス教材を活用し、産前・産後健診、家族計画などをテーマに参加者間で経験の共有を行いました。2016年は新たに、思春期層を対象に初経教育をテーマとして、課題や今後の改善方法について討議しました。また、妊婦の分娩計画(Birth Plan)を改訂し、ザンビアの主要言語であるベンバ語版も作成しました。

若者ピア・エデュケーター (PE)



新規若者 PE の育成 (20名)

ザンビアの保健分野の大きな課題である若年層の妊娠や望まない妊娠では、特に10代の若者への啓発教育活動の強化が課題です。2016年は15年に引き続き、公益財団法人テルモ生命科学芸術財団の助成金を活用し、2017年にワンストップサービスサイトの開設を予定しているムボングウェ郡ミカタ地区において、新たに15～24歳の20名の若者PE養成研修を行いました。研修では、思春期の身体の成長と変化、HIVなどの性感染症、ライフスキルなどの知識向上を図り、より多くの若者に正しい知識が普及する取り組みを実施しています。



若者リーダーシップ研修

ワンストップサービスサイト設置および設置予定の3地区の若者PE12名と各若者をサポートするSMAG 12名が選ばれ、思春期向けの初経教育強化を中心とした啓発教育活動の研修を行いました。研修で作成した初経教育に関するQ&Aと冊子「Happy to be a girl!」を活用して、学校とも連携し、地域での啓発教育活動を進めています。



ヘルススタッフ



ヘルススタッフの能力強化

プロジェクト対象地区のヘルススタッフ9名を対象に、継続的なケアを実施するためのデータ管理システム(HMIS)について検討し、活動記録フォームの改定についてのワークショップを行いました。また、ヘルススタッフが地域の母子保健推進員や若者PEの監督・支援を行うとともに、連携して活動を推進していけるコミュニティのサポート体制を強化しています。

2. リプロダクティブヘルスサービスの質の向上



ワンストップサービスサイト in カルウェオ地区

ムボングウェ郡カルウェオ地区において、母子保健棟、マタニティハウス、ユースセンター、助産師住居が完成し、医療器材も整備され、2016年10月にワンストップサービスサイトが開所しました。開所式には、ザンビアのコッパーベルト州保健局長のほか保健行政官、プロジェクト地域運営委員会メンバー、ヘルススタッフ、SMAGメンバー、若者PE代表、近隣住民に加え、在ザンビア日本国臨時大使も参加し、総勢約1000人が集まりました。ワンストップサービスサイトを多くの住民に知ってもらい、サービス利用促進のための絶好の機会となりました。

マタニティハウスの
デザインガイドが完成!



コミュニティ参加型ペインティングワークショップ

カルウェオ地区のワンストップサービスサイトにおいて、SMAG、PEおよび住民の参加によるペインティングワークショップを開催しました。マタニティハウスの壁には、女性の誕生、思春期、結婚、妊娠、老後に至るライフステージにおけるリプロダクティブヘルスについて、イラストとメッセージが描かれ、ユースセンターの壁には、PEが活動で頻繁に受ける質問と回答を表現したイラストが描かれました。また、既存のマタニティハウスは、郡保健局が壁を塗り替えて、付き添いの夫などが宿泊できる施設へと生まれ変わりました。イベントには、2015年から稼働しているワンストップサービスサイトがあるムタバ地区のSMAG 2名とPE 2名がファシリテーターとして参加し、彼らの経験をカルウェオ地区のカウンターパートに伝えました。積極的に参加したSMAGやPEによる施設の啓発教育活動への有効活用が期待されます。

3. 継続ケアのためのコミュニティの連携体制の強化



プロジェクト地区運営委員会 (Local Steering Committee (LSC)) レビュー会合

プロジェクト対象10地区を訪問し、各地区のプロジェクト運営委員会(LSC)メンバーと、これまでの成果や地域で見られた行動変容などの好事例、課題について協議を行いました。LSCメンバーから、保健センターでの施設分娩数の増加、産前健診・家族計画などに付き添う男性の増加、性や妊娠・出産についての若者の関心の高まりなどが挙げられ、コミュニティによる妊産婦支援への連携体制がさらに強化されてきています。



本邦研修

ザンビア保健省、コッパーベルト州保健局、ザンビア家族計画協会(PPAZ)から6名が日本での研修に参加しました。視察先の長野県では、地方行政、保健所、母子保健推進員などの役割や連携協力について理解を深め、ザンビアでの活動の持続可能性に向けた計画策定に生かしました。



持続可能性のためのコミュニティ連携強化ワークショップ

プロジェクト対象10地区のヘルススタッフ、LSC、SMAG、若者PE代表、およびマサイティ郡・ムボングウェ郡保健局長、現地NGO(FPAB)事務局長も参加し、カルウェオ地区のユースセンターにおいて「持続可能性のためのコミュニティ連携強化ワークショップ」を開催しました。日本での研修の学びや教訓が共有されました。また、各地区代表による、好事例や課題の共有と合わせて、持続可能性に向けた活動計画が発表されました。持続的な保健推進活動に必要な収入創出活動については、今後も専門家などと連携して支援していく必要があります。